

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立高島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての項目について、最終評価、学校関係者評価とも「A：十分達成できている」との達成度(評価)であった。島留学児童並びに不登校児童の保護者から、本校の指導・対応について感謝の意が寄せられた。</li> <li>教室で学んだことを地域に貢献する活動として活用する「サービラーニング」を推進することができた。次年度に向けて、教科等横断的な視点からカリキュラムを見直し、さらなる活用力の育成を図る。</li> <li>コロナ禍にあっても、地域の方の協力で多くの体験活動を実施することができた。今後も「地域とともにある学校」を目指し、高島ならではの特色ある学校づくりを進めていく。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましく
----------	-----------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①登校することが楽しみになる学校づくり</li> <li>②道徳性を磨く教育課程の編成</li> <li>③基礎的基本的学習内容の定着と活用力の育成</li> <li>④自らの健康の維持管理と体力向上</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師4/5人以上	・教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行ったりする。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランを達成した教員が4/5だった。 ・教員同士で共通理解したことや情報共有したことをもとに、個に応じた指導を行うことができた。	A	・先生方が共通して実践していくことが児童の力になると思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○活用力の育成	○朝のスキルタイム90%以上実施	・読んだり書いたりする活動に条件を付けることで、速読や条件に合わせた作文が書けるようにする。 ・4～6年は算数の活用問題を1学期間に2回以上実施する。	B	・朝のスキルタイムを週4回以上、週案で時間設定をしており、各学年で実施できている。 ・児童アンケート「朝のスキルタイムで『読む・書く・計算』ができている」「『そう思う』『だいたい思う』が60%、それ以外が40%だった。前回より下がっている。来年度改善の余地がある。来年度は学習状況調査問題等を参考にして活用に力を入れたい。	A	・朝のスキルタイムでの「読む・書く・計算」の取組を積み重ねて基礎学力を身に付けさせるとともに、活用力を伸ばしてほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学期に1回、人権・同和教育の視点で道徳教育に取り組む。 ○毎月、「なかよしアンケート」を実施して肯定的な回答の児童を7/9人以上にする。	・人権・同和教育の参考資料を基にして、各学年で指導を行う。 ・「なかよしアンケート」の中で、自分が頑張っていることやできるようになったことを記述する欄を設ける。 ・保護者や地域の方々と一緒に体験活動を実施する。	A	・「なかよしアンケート」を毎月実施し、90%の児童が肯定的な回答をした。また、児童の学校生活の様子を把握し、個々の対応に生かすことができた。 ・人権同和教育の視点からの道徳教育を実施し、他者を思いやる心と自己肯定感を育てることができた。 ・保護者や地域の方の協力を得ながら、総合的な学習の時間等で体験活動を行ってきた。そのことで、思いやりや社会性が身に付いてきた。	A	・「嫌なことがあったけれど、アンケートには書けなかった」という児童の声を聞いたことがある。先生方には、日頃から目配り・気配りをお願いしたい。地域でも見守って欲しい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○月1回、学活の時間を活用して担任と児童の個人面談を行い、気になることや悩み等を聞く。	・児童から得た情報を基に、月1回の児童支援委員会で情報共有を行い、全職員で問題解決を図る。 ・週1回の職員連絡会で、児童の様子で気になることがあれば報告し、いじめの未然防止に努める。	A	・児童支援委員会を月1回実施し、児童の近況について共通理解をした。また、そこで出た問題について、全職員で協議をすることができた。 ・「なかよしアンケート」の自由記入欄を参考にして個人面談を行い、問題解決につなげた。	A	・ちょっとした心の傷が大きくなることもある。極少数なので、相談できる友達が必要というには限らない。誰にも言えない児童もいると思う。児童が一人で抱え込まないようにしてほしい。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
	◎地域の未来について考え、課題解決に取り組む児童の育成	◎年間4回以上、地域の人達と共に体験活動や地域と関連した行事に取り組む。	・体験活動や地域と連携した行事と教科等を関連させ、地域へ貢献できる機会を設定する。 ・地域のひと・こと・ものに触れさせることで、これからの自分でできることを考えさせていく。	A	・地域の人と共に「地域の特産物活用」や「漁業体験」を後半に5回実施した。 ・児童アンケート「地域の良いところを知り、もっとよくしたいと考えている」「『そう思う』『だいたい思う』が80%だった。地域の環境を良くする取組などの活動ができた。	A	・コロナ禍にあっても、地域を活用した学習が多く見られた。 ・児童は、地域行事へも喜んで参加している。	(主)教務主任 (副)各教科主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童7/9人以上 ○自分の身体に関心を持ち、健康を維持していけるような知識を身に付けさせる。	・「生活リズムチェック」を活用し、食事に関する意識調査を実施する。 ・学期に1度の発育測定、学校三師による保健指導、保健だよりなどによる情報発信	A	・朝の会や給食時間に、健康や食育に関するミニ指導を定期的に行うことができた。 ・「好き嫌いをしないで、バランスよく食べることが大切」と思う児童が9/10だった。 ・学校三師の協力を得て、専門的な保健指導を行うことができた。	A	・公民館行事等で食事が出ると、みんなよく食べている。 ・食べる分、体を動かしてほしい。	保健主事 栄養教諭 学校栄養職員 食育推進担当者
	○望ましい生活習慣の形成	○早寝・早起きを意識して実行できる児童を6/9人以上にする。 ○積極的に体を動かそうとしている児童を6/9人以上にする。	・「生活リズムチェック」を活用し、睡眠に関する意識調査を実施する。 ・週に1度は20分休み、ジョギングや縄跳び等の運動をする時間を設け、全校で体づくりに取り組む。 ・週に1度は全校レクの時間を設け、体を動かして遊ぶ楽しさを実感できるようにする。	A	・毎週水曜日の業間体育には全児童が参加し、体づくりに取り組むことができた。 ・全児童が休み時間は体育館で体を動かすことができた。 ・「健康な体づくりのために、業間タイムや昼休みには進んで体を動かしている」児童が9/9だった。	A	・昨年度より、放課後、外で遊んでいる児童の姿が頻繁に見られる。 ・公民館主催のスポーツ教室には、毎回ほとんどの児童が参加している。	保健主事 栄養教諭 学校栄養職員 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各教育活動の目的を再確認し、削減・結合・交換・簡素化できるか検討し、実践する。	A	・勤務時間の中で効率的に業務を遂行できるよう各教育活動の目的を明確にして協働化を進め、特色ある学校づくりに努めた。	A	・先生方も少数なので、一人でいくつもの校務分掌を兼ねもち大変だと思う。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
○教育環境の効果的な利用	○すべての教育活動でのICT活用教育の推進	○週に2回以上、タブレット、PC等のICT機器(電子黒板を含む)を利用する児童を7/9人以上にする。	・授業の中で週に2回以上はICT機器を活用できるようにし、児童がICT機器に親しみ、その良さを実感できるようにする。	B	・多くの学習の時間でタブレットの利用が増えたため、「『そう思う』『だいたい思う』が児童アンケートで6人まで増えたが、7人以上にする数値指標には届かなかった。タブレットなどを用いた学習が促進されるように情報共有を行いながら、利用頻度を増やしていく。	A	・コロナ関連で児童が休んでいるときや定期船欠航時にオンライン授業が行われていることは、学力保障につながり大変よい。	情報教育主任

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終評価は7項目、学校関係者評価は全9項目で「A：十分達成できている」との達成度(評価)であった。「B：おおむね達成できている」項目については、さらなる児童への意識付けと指導の徹底が必要である。</li> <li>今年度はコロナ禍や自然災害時に備えて、学校全体でオンライン授業に積極的に取組み実践することで、児童・教員ともにICT活用スキルが向上した。来年度は、オンライン授業で他校との交流を試みたい。</li> <li>今年度も、地域の方の協力で多くの体験活動を実施することができた。「サービラーニング」の視点で本校の教育課程を捉え直し実践することで、「特色ある学校」「地域とともにある学校」に近づいている。今後も、高島ならではの特色ある学校づくりを推進していく。</li> </ul>
----------------	---

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育